

## Cicuta virosa ドクゼリ [頭を後ろに反り返る発作, 異嗜]

Cicuta virosa L.

### BACK GROUND

Cicuta virosaは、セリ科ドクゼリ属の大型の多年草で、60～100cm位になる植物です。小川や沼、湿原など、水辺の湿ったところに群生しています。外見は、葉も花も食用のセリに似ていて、生育場所もセリと共通していますが、全体的にセリよりも大きく、地



(A)

下茎が太く緑色で、タケノコ状の節があります。またセリと違い、毒をもっています。そのため、日本ではドクゼリと呼ばれています。全草に猛毒成分がありますが、とくに根茎にはシクトキシシンというトリカブトに匹敵する神経猛毒があり、とくに夏になるとその含有濃度は高まります。この主な毒性成分であるシクトキシシンは、高粘度の黄色い液体で、ニンジンのような匂いをもっています。この成分は根と茎の根元部分に多く含まれています。若い葉や成長している茎にも強い毒性がありますが、成熟した葉は比較的安全です。開花期は、6～8月で、白色の小花を密生して咲かせます。

一般名は、Water Hemlock, Cow baneと呼ばれています。Cow baneはその名のとおりに、牛が食べても死んでしまうことに由来します。Baneは、古英語の殺人、破壊を意味するbanaに由来しています。200～300gの根を食べるだけで、大きな牛でも死んでしまいます。牛が食べた後、15分から6時間くらいで瞳孔は散大し、多量の流涎、嘔吐、下痢、腹痛、間代性の痙攣などの中毒症状が出始め、中枢神経の延髄や中脳に作用して、15分から2時間以内に頻脈、頻呼吸、激しい痙攣による窒息と循環虚脱から昏睡に陥り、死亡します。

この植物の毒は、主に神経系と皮膚、筋肉にその作

用が目立ちます。

### ■神経系

まず、眼球は一点を見つめたまま上方へ向かいます。瞳孔は散瞳し、顔色は青白くなっているか、または興奮して赤くなっています。とくに口唇ははっきり青くなります。眼瞼部の間代性の痙攣が起こります。

次に、後弓反張を伴った痙攣が始まります。頸や頭部の筋肉の拘縮のため、破傷風のように後ろに反り返ってしまいます。持続性の痙攣は、顔面にも起こり、ついで四肢にも広がっていきます。この痙攣は、全身各所にも起こり、体の一部をちょっと押したり触れるだけで、誘発されてしまうことがあります。

痙攣時には、意識が混濁して、また、ひどく目が回り、物が動いているかのような視覚障害が起こります。斜視になることもあります。痙攣発作の前に、子供の場合は神経が高ぶり、歌ったり踊ったりすることがあります。一般的に1人であることを望みます。

また、異嗜の傾向も示すことがあり、土や石灰や石炭などを舐めたり食べたりします。睡眠中にはっきりとした夢をみることもあり、それによって眼が覚めてしまいます。そのときは多量の汗をかいています。

### ■皮膚

- ・顔と手の皮膚が冷たく感じられます。
- ・顔や頭部に小膿疱が見られます。
- ・明るい黄色の分泌物を伴う、かゆみのない湿疹様皮膚炎が起こります。

### ■筋肉

- ・間代性の痙攣に伴う筋肉の拘縮が見られます。
- ・尿道括約筋の弛緩により、失禁が起こります。
- ・骨格筋と心筋の筋線維の変性と壊死が見られます。

### MATERIAL

新鮮な根茎を、シクトキシシン含有量の多い開花期に採取したもの

### FIRST PROVING

ハーネマン (『Materia Medica Pura』第4巻)

### AFFINITY

Cicuta virosaは、主に脳神経系に強い親和性をもっています。主に神経系と皮膚、消化器系の症例に使われます。

## CLINICAL APPLICATIONS

### ■神経系

- ・ **てんかん**：もっとも特徴的なのは、発作中に頭が後ろに反り返ること（強直性発作）です。
- ・ 頭部外傷後の発作（Arnica, Nat-s, Hypericum）
- ・ 小発作
- ・ 髄膜炎
- ・ 斜頸
- ・ 破傷風
- ・ 知能発達の遅れ：行動が非常に子供っぽく知能指数が低い。頭部外傷後の知能障害
- ・ 異嗜
- ・ 斜視
- ・ 筋肉の間代性の痙攣：ピクピクした筋肉の痙攣や断続的にビクッと動くのが特徴の1つです。
- ・ しゃっくり

### ■皮膚

- ・ 乾癬
- ・ 膿疱疹
- ・ 膿疱疹化した湿疹：分泌物によってレモン色の痂皮ができます。

## MODALITY

- ▶ 暖かさ、体をのけ反らせること、食後など
- ◀ 寒さ、触られること（ほんのわずかでも）、内部寄生虫感染、頭部打撲、喫煙

## RELATIONS

- ・ Antidoted by：Arnica, Opium
- ・ Antidoted to：Opium

### （参考）セリとドクゼリの区別

ドクゼリはセリよりも大きく育ちます。葉は、両者とも



(A)

羽状複葉です。小葉が卵型であるのがセリで、長楕円状披針形であるのがドクゼリです。また茎や葉を摘んだとき、いやな臭いがすればドクゼリの可能性があり、さらに1本長く伸びた茎を折り、中が中空になっていたらドクゼリです。ドクゼリは葉をちぎると、切り口から黄色い汁が出ます。両者ともに散形に花をつけますが、ドクゼリのほうがやや密度が濃くて小さくまとまっています。

### （参考）アルカロイドとは

植物体中に存在する塩基性窒素を含む有機化合物の一群の総称で、とくに神経系に激しく作用する生理作用をもっています。大部分のアルカロイドは顕花植物中、とくに双子葉植物に見い出され、多種類のアルカロイドが共存しています。窒素を含む複素環をもって有機酸と結合して存在していますが、そのほとんどは構造が非常に複雑であるため、構造決定が困難になっています。植物体中での役割はさまざまに推測されていますが、明確には判明していません。主な化合物には、ニコチン、コカイン、キニン、ナルコチン、カフェイン、モルヒネ、レセルピン、ソラニジンなどがあります。

## Cimicifuga racemosa アメリカショウマ [女性生殖器系の諸症状]

Cimicifuga racemosa L. Nutt

Actaea racemosa L.

## BACK GROUND

Cimicifuga は、北米原産の多年草です。北米東部、とくにカナダからマサチューセッツ、オハイオ、インディアナ、ジョージア州にかけて多く自生し、肥沃な

森林地帯や丘の斜面などに見られます。

高さ1～2mになります。根茎は太くて黒っぽく、節が多くあります。茎は滑らかで、縦に溝があります。葉は互生し、3～5枚の鋸歯のある卵形で、長さ4～